

令和2年第1回北海道議会定例会 一般質問 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 令和2年3月12日
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 議員
 答弁者 知事

質問要旨	答弁要旨
<p>二 知事の政治姿勢について (一) カジノ誘致等について 1 政治家の逮捕・起訴についての認識について (菊地議員) 次に、知事の政治姿勢に関し、まずカジノ誘致等についてです。 内閣府副大臣だった秋元司衆院議員がIRを巡る汚職事件で収賄罪で逮捕・起訴されました。IR担当の内閣府副大臣であったにもかかわらず、業者と接触していた行為自体が許されません。知事は秋元議員の逮捕・起訴をどう受け止めているのか、伺います。</p> <p>2 カジノの構造的問題点について (菊地議員) 問題はカジノ、IRそのものが収賄などの不正行為を生み出す温床であったことに他なりません。政治家自らが収賄事件で逮捕され、IRが政治家と企業との癒着の温床であることが国民の前に晒されました。知事は、IRが汚職を生む温床となる構造的問題があるとの認識はお持ちですか、伺います。</p> <p>3 カジノ誘致の断念について (菊地議員) 知事は来年度予算案にIR関連予算を計上しませんが、「来たるべき時には誘致したい」と、未だに誘致への姿勢を諦めていません。知事は、未練を残さず、多数の世論の声に応え、カジノ誘致を断念すべきだと考えますが、いかがですか。</p> <p>【再質】 二 知事の政治姿勢について (一) カジノ誘致等について 3 カジノ誘致の断念について (菊地議員) 次に、カジノ誘致等についてです。日本総研の藻谷首席研究員は、日本型IRについて「リゾート法の二の舞になりかねない」と警鐘を鳴らしています。 留寿都村は、汚職事件の舞台となったことがマイナスイメージとなり、誘致活動の凍結を決めました。北海道のイメージダウンにつながるIR誘致はきっぱり手を引き、断念することが賢明と考えますが、見解を伺います。</p>	<p>(知事) 次に、IRを巡る一連の事件についてであります。本件については、現在、刑事裁判の係属中であり、その推移を注視しているところであります。 いずれにいたしましても、現職の国会議員が逮捕・起訴されるという事態は、大変残念なことと受け止めております。</p> <p>(知事) 次に、IR事業者との関係などについてであります。IRは、国による区域認定やカジノ事業の免許などを通じ、民間事業者による大規模施設の整備や運営を可能とするものであり、行政として、公平かつ公正な事業者への対応が強く求められるものと認識をしております。 これまでも道では、IR事業者と面会等を行う際には、公務員倫理に関する条例や規則等に基づき、適正に対応してきているところでありますが、本年1月には、道独自の対応指針を定め、なお一層の厳正な業務の推進に努めております。</p> <p>(知事) 次に、IRに関する今後の取組についてであります。IRの誘致に挑戦するためには、事業者との公平・公正な関係を確保し、多くの道民の皆様にご理解をいただきながら、計画性をもって所要の準備を進める必要があると考えております。 道としては、こうした考えのもと、今回の認定から7年後に行われる、国における区域数の検討を見据え、現候補地における整備の可能性を改めて検証するとともに、北海道らしいIRのコンセプトづくりに向けて、課題となっている事業の継続性や波及効果等について検討を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>(知事) 次に、IRについてであります。IRは、インバウンドをはじめとした交流人口の増加はもとより、民間投資や域内需要の拡大など幅広い効果が期待でき、本道の持続的な発展にも寄与するものと考えております。 私といたしましては、こうした観点から、自然や景観と調和した北海道らしいIRの実現に向け、事業者の方々と適正な関係を保ち続けながら、計画性をもって所要の準備を進めてまいります。</p>